

「次の世代の中心に」

秋田職業能力開発短期大学校

3学科52人が修了式

を通じて故郷、国の新たな日常を創造し、維持してほしい」と願いを込めた。

在校生を代表し、木次谷唯冬さん（電子情報技術科1年）は「修了生の皆さんからは、ものづくりの姿勢を学んだ。先輩から学んだことを糧に、少しずつでも成長していきたいよう精進していく」と送辞。

修了生代表の奈良岡海誠さん（住居環境科）は答辞で「多くの専門的知識を学び、技術を習得し、よりよい技術者への道を歩んできた。あす

から別々の道を歩む。苦難を乗り越え、かけがえのない経験を得た私たちなら、どんな不安、困難にも打ち勝つことができる」と力強く語った。席上、成績優秀者や、学業・競技大会などで優秀な成績を収めた修了生の表彰も行った。

被表彰者は次の通り。

▽校長表彰Ⅱ花ノ木柊羽（生産技術科）、増富海柊（電子情報技術科）、竹田柊（住居環境科）

▽特別成績優秀者Ⅱ虻川詞保（住居環境科）

大館市の秋田職業能力開発短期大学校（中村雅英校長）は14日、同校で修了式を行った。修了生は生産技術科13人、電子情報技術科20人、住居環境科19人の計52人。実践技術者としての誇りを胸に、2年間の思い出が詰まった学びやを巣立った。

中村校長が一人一人に修了証書を手渡した。式辞で「皆さんは2年間の学びを礎に、新たな職業生活、さらなる学業生活を営むことになる。実践技術者として次の世代の中心の立場になり、ものづくり



証書を受け取る修了生（秋田職業能力開発短期大学校）